

## オーディオ実験室収載

### STAGE+を楽しむ(306)(HP 収載)

#### —バッハのマニフィカト—

##### 1. 始めに

前報(305)に引き続き、STAGE+のバッハのマニフィカトの演奏の試聴を実施します。

##### 2. 試聴音源

今回は、引き続き STAGE+のバッハのマニフィカトの演奏を選びました。

パブロ・エラス=カサドが指揮するバッハ父子のマニフィカト

メルク修道院、オーストリア

収録日: 2025年6月6日

パブロ・エラス=カサドがコンツェントラス・ムジクス・ウィーンとコレギウム・ヴォカーレ 1704 を指揮し、メルク修道院で開催される国際バロック音楽祭のオーピングを飾ります。彼が挑むのは、歴史に名を遺す音楽一家が生んだ2人の作曲家によるマニフィカト。ヨハン・セバスティアン・バッハが 1723 年に作曲したマニフィカトは、彼がラテン語のテキストに作曲した最初の作品でもあり、1733 年に改訂され人気作としての地位を確立しました。そして、次男カール・フィリップ・エマヌエル・バッハによって 1749 年に作曲された作品も華麗さでは決して劣らず、当時流行していた新しい音楽様式を反映しています。ソリストの豪華な顔ぶれとエラス=カサドの卓越した統率力によって、爽快で圧倒的な演奏をお楽しみいただけることでしょう。

ソリスト:

ヌリア・リアル (ソプラノ)、シーラ・パチョルニク (ソプラノ)、ソフィー・ハームセン (アルト)、ミヒヤエル・シャーデ (テノール)、ヨハネス・カムラー (バス)

演奏:

コンツェントラス・ムジクス・ウィーン、コレギウム・ヴォカーレ 1704

指揮:

パブロ・エラス=カサド

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ マニフィカトニ長調 BWV 243

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ マニフィカト Wq. 215



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、下記のとおり、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

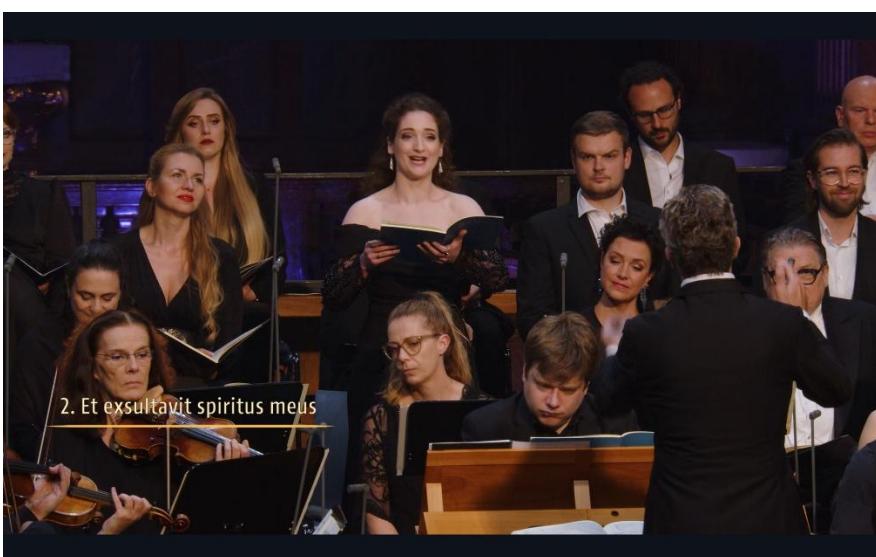
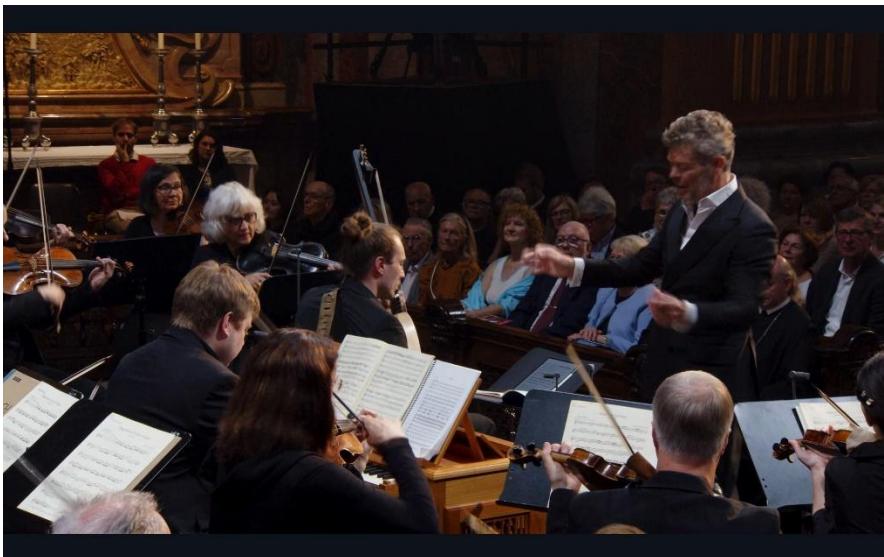
マニフィカト（ラテン語: *Magnificat*）「我が心、主を崇め」は、キリスト教聖歌のひとつで、バッハ父子のマニフィカトが続いて演奏されます。

ヨハン・セバスティアン・バッハのマニフィカトは、しっとりと厳肅な表情をたたえ、カール・フィリップ・エマヌエル・バッハは、やや古典派のハイドンのオラトリオに近いようなダイナミズムを感じさせます。

修道院での収録で残響が長いせいか、分離はよくありませんが、ソリスト、合唱陣、オーケストラが混然となつた響きとなっています。

ソリストはオーケストラの後方、合唱陣の前列で、歌唱が前にでることなく、オーケストラと合唱に溶け込んでいます。

コンツェントゥス・ムジクス・ウィーンの演奏はすべて古楽器で、収録環境のせいでさほど明晰ではありませんが、古楽器らしい質感は十分に感じられます。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、バッハ父子のマニフィカトの表情の違いやコンツェントゥス・ムジクス・ウィーンの古楽器の質感を感じ取ることができました。

以上